



初任科第89期

133名

平成30年8月16日(木)
~8月17日(金)

消防学校の いちばん長い日

第2回野外訓練 特集号



「消防学校のいちばん長い日」—それは8月16日午前9時、校長訓示から始まった…

初任科教育訓練の後半戦のヤマの一つ、第2回野外訓練。第1部は日中実科訓練、第2部は夜間強歩訓練を実施する。消防職員に必要な強靱な体力・精神力の養成、部隊活動における団結力の重要性の再認識を目的とする。初任科の課程の中で最も長く、最も辛いであろう訓練。自身の健康・体調管理、仲間への目配り・気遣い、的確な状況把握が必須だ。



澤野 岳志 校長

目的意識を持って臨むこと。第2部ばかりを意識して、第1部を疎かにしないこと。日頃の訓練成果を存分に発揮すること。



樋渡 勝志 総代
(富士市消防本部)

今日はこの半年間で最も過酷な1日となる。自分たちが何のためにこうして訓練をしているのか、一人ひとりしっかりと考えてもらいたい。

訓練担当教官
穴井 一滋 主査
(湖西市消防本部派遣)



夜間強歩訓練のミッションは「所定のコースを踏破し、決められた時間に戻ること」。「全員完歩」も大切だが、それだけではだめだ。

〈8月16日(木)【第1部】日中実科訓練スケジュール〉

時間	内容	備考
6時15分	起床	
6時30分	日朝点呼・早朝体育	
7時30分～	朝食	
8時20分	日直・寮直交代	
8時55分	訓練場司令台前集合	
9時00分～	校長訓示	
9時10分～	訓練準備・準備運動	15分 休憩 20分
9時45分～	クラス別訓練	70分(救急・応用・救助)
10時55分～	休憩・昼食	65分
12時00分～	準備運動	15分
12時15分～	クラス別訓練	70分(救急・応用・救助)
13時25分～	休憩	20分
13時45分～	クラス別訓練	70分(救急・応用・救助)
14時55分～	撤収・集合	15分
15時10分～	休憩・夕食	105分
17時00分	学校出発	千本浜公園へバス移動



準備運動 (消防体操)

救急



三角巾による応急手当等

出血時の病態を把握し、的確な処置を学ぶことで、一般市民への啓発のスキルを向上させる。



毛布と竹の棒で担架を作成。災害現場では資機材が不足するため、利用できるものは何でも活用！



応用



火災防ぎょシミュレーション

火災防ぎょの基本である、煙、火及び空気をコントロールすることを理解させるため、ドールハウスを利用したシミュレーションを実施。火煙の挙動と消火戦術及び検索救助との関係について、初任科生たちは実際に目で見て学ぶことができた。



低所救助事案想定訓練

救助



活動時間は40分。これまでに学んだ知識・技術を駆使し、自分たちで考え、要救助者を救出すること！



《想定》
高低差約6mの崖下に車両1台が転落。運転者1名は自力脱出不可能。



【活動条件①】
斜面への進入は降下線又は確保ロープを設定すること。



【活動条件②】
要救助者(運転者)は全身固定した状態で引き揚げる。

体力錬成



走れ！

覇気出せ〜



走れ！

走れ！

第2部は沼津、千本浜公園から始まる、暗く、長い道のり。まずはスタート地点に向かって出発！



出発前の教官打合せ



学校長はお見送り

初任科生たちは大型バス3台にクラス毎に乗車。教官たちは大型バスと公用車(3台)に分乗。予定時刻に沼津千本浜公園を目指して出発！

行きはヨイヨイ
帰りは〇〇〇

公用車サポート部隊も出発



第2回野外訓練(夜間強歩)行程表

平成30年8月16日(木)~17日(金)

いよいよ第2部夜間訓練へ！

1	千本浜公園 18:50	3.92km 40分	今沢米軍基地 (秋元水産) 19:30	★休息 15分
2	今沢米軍基地 (秋元水産) 19:45	3.11km 35分	ペルメゾン原 (土井鋼材) 20:20	★休息 15分
3	ペルメゾン原 (土井鋼材) 20:35	5.5km 60分	マリンプール 21:35	★休息(トイレ) 15分
4	マリンプール 21:50	3.02km 40分	富士と港の 見える公園 22:30	★休息(トイレ) 15分
5	富士と港の 見える公園 22:45	3.8km 45分	田子の浦 みなと公園 23:30	★休息(トイレ) 15分
6	田子の浦 みなと公園 23:45	2.95km 40分	入道樋門公園 0:25	★休息(トイレ) 15分
7	入道樋門公園 0:40	2.7km 35分	富士川緑地公園 1:15	★休息(トイレ) 15分
8	富士川緑地公園 1:30	2.5km 35分	日の出公園 2:05	☆休憩(トイレ) 30分
9	日の出公園 2:35	2.9km 35分	新蒲原駅 3:05	★休息(トイレ) 15分
10	新蒲原駅 3:20	3.7km 50分	港北消防署 庵原分署 4:10	☆休憩(トイレ) 30分
11	港北消防署 庵原分署 4:40	2.5km 35分	由比駅東公園 5:15	★休息(トイレ) 15分
12	由比駅東公園 5:30	3.0km 50分	薩埵峠駐車場 6:20	★休息(トイレ) 15分
13	薩埵峠駐車場 6:35	3.0km 50分	消防学校 7:25	



千本浜公園から夕暮れの駿河湾と伊豆半島を望む



出発まで夕闇が迫る海を眺める初任科生たち



刻々と出発が迫る中、初任科生たちは何を思う…？

出発



この訓練において到着地点である消防学校はあくまで通過点。この訓練自体が通過点だ。私たちはこの訓練を乗り越えて初めて消防士として活動を行う。私たちにはこの先に人を助けるという使命がある！



宍井主査



樋渡 総代



この訓練に必要なのは「気持ち」だ。“絶対に負けない”という強い志を持って訓練に臨め！目指す消防学校は“災害の現場”だ。現場に行く手段は徒歩のみ。現場には助けを求めている人達がいる。現場活動が待っている。



スタート当初はまだ西の空(前進方向)には明るさが残り、街の明かりが色を添える



重い荷物、暑さ・湿気、強風、足や腰・股の痛み、さらには慣れない夜の闇との闘い……



休憩地点の初任科生たち

初任科生たちは、水分、栄養分の補給や、足などのケアに余念がありません。眠気に襲われている者は、少しでも睡眠をとるように自然と横になります。



2箇所目の休憩地点、ヘルメソノ原(土井鋼材駐車場)では、次のマリンプルまでの区間が最も長いことから、教官から「ポカリスエットアイスラリー」が全員に配られました。これは大塚製薬㈱の御厚意により初任科生の人數分の提供があったものです。



【校長登場①】

沼津を出発して2時間強、10km以上を歩いて到着する「富士マリンプル」。実は、この辺りでリタイアする者が出てくるのではと心配しての登場となった。

何よりも驚いたのは海から吹きつける風の強さ。教官たちの話では、この強風が幸いにも暑さ凌ぎになっているという。

予想は見事大外れ。

所定の休憩時間が経過すると皆元気に立ち上がり、先頭部隊を交代してこの地を出発。新たに先頭に出る部隊に対して、皆が「頑張れ」と声を掛け、送り出す。まるで大好きな映画、南北戦争での黒人部隊を描いた名作『グローリー』の感動的な一場面を見るかのようであった。

↓マリンプルでの休息を終え、次の地点を目指す初任科隊列の最後尾を見送る



↑富士マリンプル(休憩地点)の昼間の光景
[7/27コース下見時に撮影]



田子の浦港から工場の夜景、そして街の明かりを望む



肅々と夜 富士川を渡る...

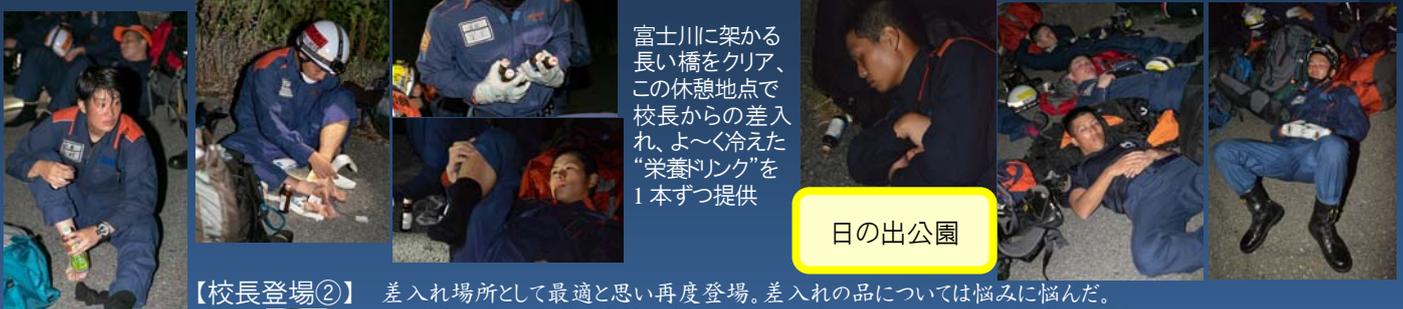


富士川を渡り、日の出公園に到着すれば、30分間の休憩が待っている。



夜間強歩コース図②
「消防学校」フィニッシュ

休憩地点の初任科生たち



富士川に架かる長い橋をクリア、この休憩地点で校長からの差入れ、よ〜く冷えた“栄養ドリンク”を1本ずつ提供

日の出公園

【校長登場②】



差入れ場所として最適と思い再度登場。差入れの品については悩みに悩んだ。この地点までに5名(うち女性1名)のリタイアが出たことを知る。5名とも随伴の公用車(マイクロバス)に收容され、休んでいる。重症者がなく、何よりだ。これから目指す蒲原、由比では前年度の訓練でリタイアが続出。不安を覚えながら出発を見送る。



新蒲原駅

港北消防署庵原分署



由比の街をひたすら歩く



夜が明ける...



今の初任科生たちにとって
お日様の強烈な光と熱は手強いぞ!



由比駅を目指して...
あと少し もう少し



【校長登場③】

辺りが明るくなる頃に初任科生たちを迎えようと三度目の登場。この時点で予想に反してリタイアは5名のままだった。隊列に「おはよう」と声を掛けると「おはようございます」「差入れをありがとうございました」と歯切れの良い返事が返ってくる。しかし中には、声も出せず、下を向いて苦しそうに一歩一歩を進める者もいる。同じ班の者は気遣いながら同じ歩調で進んでいく。ペースダウンし、全体の隊列が長く伸びている。ここまで来れば、あとは薩埵峠越え。ただ、ここで諦める者が何人か出てきそうだ。果たしてどのような結果になるかは学校で待つこととする。



休憩地点の初任科生たち



明るくなった空の下
重～い空気が漂う



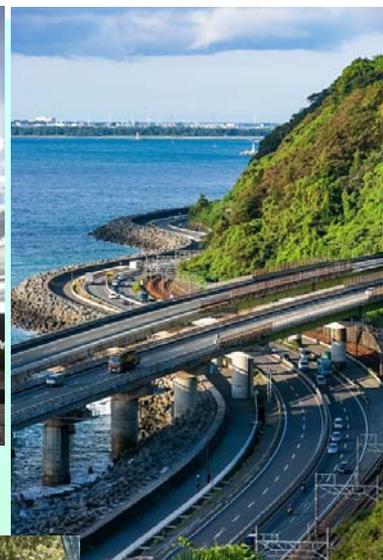
由比駅東公園



最後の難所 峠越え



薩垂峠 景色は良いが...



休憩地点の初任科生たち



薩垂峠駐車場

初任科生たち相当疲れたね



薩垂峠を越えた
疲れた...
でも次はいよいよ学校だ
皆、胸を張って行進しよう



学校に戻ってきたぞ!



先頭は今回の訓練の担当教官である穴井主査



総代の樋渡学生が校旗を掲げて穴井教官に続く



校門では、校長ほか留守番部隊、先に到着した公用車隊の教官たちが初任科生たちを出迎えた



屋外訓練場
(グラウンド)
司令台前へ整列!



今回の訓練は、初任科生にとって初めての経験であったと思う。災害時には、交通機関が遮断され、資機材を持って徒歩で災害現場まで行かなければならないこともある。しっかりと覚えておくこと。今回は5人が途中リタイアした。想定していたより少ない人数であり、確かに皆よく頑張ったと思う。修了式まであと約1か月。体調管理をしっかりと行い、一層の体力錬成に励んでほしい。



瀧 悟
教務課長

講評



穴井主査

ここまで本当によく頑張った。この訓練に対する皆の意気込みは十分に伝わった。



「達成感に浸っているお前たちは今、災害現場に到着したんだ。ここからが本番ということを忘れるな！-これから消防活動を開始する。」

今から
ホース展開
訓練を行う!!



ホース出せ!



ホース担げ!

えっ、エッ、エエッ
まさか今から走るの?

「訓練に終わりなし」

表情、話を聞く姿勢・態度、ホースを担ぐ動き、その一つひとつが市民に「安心感」を与えるものだったか? 市民を安心させる消防士だったか? 疲れた顔を見せるな! プロ意識を持て!

わかれ!



災害活動に相当する訓練は実施せず、解散し、ホースを手に、或いは担いで寮へと戻る初任科生たち。その足取りは重い。前日の校長訓示から概ね24時間経過。こうして「消防学校のいらばん長い日」は終わった。教官、学生、お疲れ様でした。



特別付録

第2回野外訓練終了後、初任科生たちから訓練実施に係る感想文が提出されました。ここでは、その感想文の中から、校長独断で抜粋したものをほんの一部ですが御紹介します。これまでのページと初任科生たちが感じたこと等と結び付けながらお楽しみいただければと思います。なお、このページに掲載の写真は、訓練第2日の早朝、消防学校から空の様子を撮影したものです。



8月17日 4:45

実務研修で自分の甘さを知り、第2回野外訓練で自分の弱さを知った。

…いざ歩き出すと、景色が一つも変わらない。ただひたすら続く海岸線。浜風が強くて強くて、度々自分の顔に飛んでくるのは海水なのか、それとも前を歩く人達の汗なのか、そんなことを考えながら序盤は歩いた。

前半は班員たちの歩行も顔色も問題なかった。中間地点を過ぎたあたりから変化が見られた。励まし合って歩いていた班員たちの口数が少なくなってきた。班員Aは腰を押さえ、班員Bは寝ながら歩き、班員Cは顔に生気がない。しまいには班員Dは股ずれが酷いのか、歩き方がゾンビみたいだ。4人を見守れるように後ろを歩いていた自分は“これではまずいぞ”と感じ、班員に渴を入れた。「これは遠足じゃない、お仕事だ。俺らは歩いてお金もらっているんだよ。って思ったら頑張れるでしょ。」—4人の頭には『？』が浮かんでいるように見えたが、何とか理解してくれたようだ。

…庵原分署に着き、30分休憩だったので死んだように仮眠した。実際は10分程度だったと思うが、その時の自分は1時間に感じた。体力はかなり回復できた。日も上がってきて班員の気分もハイになってきたことが見て取れた。このままの勢いで行こうと、最後の難関、薩埵峠も前を歩く別の班を追い越すハイペースに。そこから見えた駿河湾は格別に綺麗だった。興津川から学校の訓練塔が見えてきて不思議な気持ちになった。

学校に到着し、少し気持ちが緩んだところに、教官が「ホース展張訓練を行う！」—その言葉で我に返り、“ホースを担いで今から走るんだな”と思ったが、実際は走らなかった。

「訓練に終わりなし」—最後の最後に自分の心に一番響いた言葉だ。

…薩埵峠を越え、いよいよ消防学校まで約1キロになったとき、近所の子供達やお年寄りの方々が「頑張れ！お疲れ様！」と声をかけてくださった。

私はこのような言葉をいただける仕事、人の役に立つ仕事に就くことができ良かったと心の底から思いました。

1日中起きていることがこんなにも辛いのか。ただ歩いているだけなのに足には激痛が走る。人生で最も厳しかった日。

…野外訓練では忍耐力を更に強化するため、「完歩できなければ辞めてしまおう」、そのような覚悟をもって臨みました。ですが、想像の10倍過酷でした。5キロ地点で股ずれが起り始め、20キロ地点では靴ずれも酷く起り始め、私の体は血だらけでした。何回も何回もリタイアしようと考えました。

果たして何が私のそんな体を動かしたのか。それはたった4か月半ですが消防士としてのプライドです。私が学生であったり、会社員であったとしたら、とっくに諦めていただろうと思います。強い意志と忍耐力を持った消防士に近づけるよう精進していきたいです。

また、様々な意味で、自分は一人ではないということを実感しました。まず、消防学校にはたくさんの仲間がいます。皆それぞれ年齢や性格は違いますが、訓練に臨む姿勢は同じです。辛いのは決して自分だけではない。皆が頑張っている。そのような状況で励ましの声を掛けてくれる仲間がいるのです。

もう一つは、市民の方、学校の関係者の期待を背負っているということです。私たちの活動の目的は、市民の安全を守ることです。そのために厳しい訓練を積んでいます。私たちが体力錬成で走っていると、市民の方が温かい声を掛けてくれます。そんな方々を絶対に守りたい。自分が完歩できなくてどうするんだ。そのような気持ちで臨むことができました。

今回の訓練は、ただの通過点でしかありません。けれども私にとっては、一番大きい通過点だったと思います。

…泣き言を並べたところで状況は何一つ変わらない。そう思った自分は無心になってひたすら足を動かし続けた。延々と歩く中で、「苦しい 疲れた もうやめた では 人の命は救えない」という、消防学校内にも掲示されている本田大三郎先生の言葉を思い出した。

自分達はただ歩くことが目的ではなく、自分の足でたどり着いた災害現場にいる傷病者を救うことが目的であり使命である。だから助けを求めている人に安心感を与えるくらいの余裕がなければならぬと再認識し、苦しさを表に出さないといったことにも気を配ってゴールの消防学校へと向かった。



8月17日 6:19

…今回の野外訓練は、人生の中で辛く、過酷な出来事であった。暗い夜の中、重い荷物、眠気、足の痛み、暑さとの闘い、ひたすらに歩くことがこんなにも大変で苦しいのかを知った。

自分の反省点は三つある。

一つ目は、準備不足であったこと。途中で足を痛め、テーピングを班員に借りたことだ。

二つ目は、自分は班長であり、救急救命士でもあるが、班員が熱中症でリタイアしてしまった。熱中症になる前に自分が何をすればよかったか。もう少し班員の顔色や状態を把握していればと思うと残念である。正直、自分で精一杯な部分があった。体力面、周囲の状況把握、自分の足りない部分が浮き彫りとなった。

三つ目は、暗い顔、辛い顔をしたこと。消防士は、火災現場、災害現場で被災者の前で絶対にしてはいけないことだ。



何思う…? 休憩地点の初任科生たち

(掲載の感想文とは直接関係ありません)



私は悔しい気持ちを抱えて終えることとなった。その理由は二つある。

一つ目は途中でリタイアしてしまったこと。

23キロ辺りでリタイアを宣告されてしまった。その時に教官に言われた「お前にはまだ消防人としての未来が長いからしっかり向き合え。」という言葉が今も心に残っている。何かを途中で止めるということも本当に勇気のいることだと感じた。

二つ目は、リタイアした後の自分の行動。リタイアした悔しさで私は収容されたバスの中で泣いてしまい、その後もぼう然としていた。消防人としてはしっかりと切り替えて全力で歩いている皆の応援やサポートに徹するべきであり、自分の未熟な部分が出てしまったと反省している、このような未熟な自分を知ることができたのは野外訓練を通して良かった点だと思う。

目標としていた「自分を見つめ直す」時間は十分にあった。この訓練で感じた自分の弱みは、「他人を思いやる気持ち」「積極性」「迅速性」が足りないところ。

…2回目の休憩で編上げ靴で擦れた両かかとに大きなマメができ、痛みとの闘いが始まった。12キロ歩いた富士マリンプールで、まだ行程の四分の一であることに心が折れそうになり、本当に完歩できるのか、班長として班員を引っ張っていけるのか、不安に押し潰されそうになりながらも自分を信じ、周りの仲間を信じ、4か月半の消防学校生活を信じ、ただひたすらに一歩一歩前に進んだ。

夜中の1時頃から足の痛みと、もう一つ、眠気との闘いが始まった。班員で声を掛け合い、5時頃になると市民の方々に応援され、朝日も昇り、さすがしさも感じた。由比駅に到着した時点で足がバラバラになりそうだったが、声を掛け合い、学校を目指した。

木曜日の午後7時から歩き始めて到着したのは金曜日の午前8時過ぎだった。拍手で出迎えられ、本当に涙が出そうになった。だが、それだけは甘い。まだまだ未熟。なぜなら到着がゴールではなく、ここから本当の活動が始まるからである。どんな状況であろうとも、苦しい顔をせず、常に自分が消防士であることを忘れずに行動しなければならぬ。歩き切ることで精一杯な自分は、現場では使えない隊員である。

だが、辛い時に踏ん張れるメンタルと体力は4月より確実に成長していたし、今回の訓練で改めて自分が未熟であることを再確認できた。残りの学校生活、これからの消防人生、少しずつでも確実に成長していきたい。

自分は完歩することができなかった。

距離的には半分ほどの20km、リタイアの原因は、頭痛、めまい、吐き気から熱中症のⅡ度だと考えられる。

教官にリタイアの宣告をされた時には、悔しさと自分の不甲斐なさに涙が出た。

自分では万全の準備をしたのになぜか、何がいけなかったのかと収容されたバスの中でたくさん考えた。

「何が起こるか分からない」—万全な準備をしていても成功するとは限らない。

何においても「絶対はない」のだと改めて思った。



8月17日 6:26

※ 8月18日の静岡新聞(朝刊)にはカラー写真付きで「海岸沿いを43キロ徹夜で歩行訓練」と野外訓練の記事が掲載されました。学校にとって、また初任科生たちにとって大きな励みになります。

編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1

☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページにも掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

